

# 『函西さっぼろ』

つ、じヶ丘同窓会札幌支部会報

第8号

2011年9月1日  
発行部数：1000部  
発行責任者：事務局  
編集長：伊藤祐輔

## 志高く

理想を求め、  
真理を探究し、  
情熱豊かに生きる

### 総会 & 懇親会開催に向けて

つ、じヶ丘同窓会札幌支部

支部長 林 寿正

初秋の候、皆様に於かれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

三月の東日本大震災は多くの皆様に大きな影響を与えたのではないのでしょうか。被災された方も千五百名以上に上り、その実態は計り知れないものとなっております。被災された方々には心よりお見舞いを申し上げます。

このような状況の中ではありませんが、同窓生の皆様と集い、一緒に懐かしみ、話しに花を咲かせることはとても有意義で素敵な事と思えます。其々が過ぎた様々な日々、それらの時代が流れたあの日あの時を懐かしみ、そして共に笑い、悩み、泣いた日々を蘇らせ、かけがえのない友とのひとときを過す・当日参加する同窓生との一期一会、是非貴重な時間をのんびり、ゆつくりと心ゆくまでお楽しみ下さい。

総会は、毎年多くの皆様のご尽力で盛大に開催されております。昨年は、函館西高等学校石原卓典校長（現 旭川南高校校長）、つ、じヶ丘同窓会 本間会長、東京支部 新谷会長にもお越

し頂き皆様からご挨拶を頂戴いたしました。

また、一八回生(故)佐藤泰志さんの作品「海炭市叙景」が東京国際映画祭にノミネートされる快挙があり、大変盛り上がったものになりました。(十二月一日に札幌シアターキノで封切された映画は何度も延長される人気ぶり、同窓生のみならず、多くの方に感動を与えたとお聞きし、とても誇らしい気持ちであります。)

懇親会は、西高応援歌&パフォーマンス、佐藤泰志展示コーナー、校歌の大合唱等、郷里に思いを馳せ乍ら有意義なひと時となりました。

本年は別紙の通りご案内申し上げます。

今回から更に多くの皆様にご案内をさせて頂く為に、ホームページを始め、ツイッターやFacebookなども駆使しております。

母校に、そして故郷「情緒ある港まち函館」に思いを馳せていただけますよう準備を進めております。お一人で参加されても十分に楽しんでいただけたらと思います。是非お越し頂ければ幸いです。

役員一同、心よりお待ちしております。

#### 【業務内容】

- ・ホームページの企画・デザイン・制作
- ・モバイルコンテンツの企画・デザイン・制作
- ・WEBアプリケーション・データベースの構築
- ・ネットワーク・ECシステムの企画・構築
- ・インターネットサーバの構築・運用・管理
- ・マルチメディアコンテンツの企画・デザイン・制作
- ・各種印刷物の企画・デザイン・制作

有限会社

イメージ・ソース・ジャパン

代表取締役社長 竹内直樹

(西高 38 回生)

〒060-0062

北海道札幌市中央区南 2 条西 12 丁目 324-4

東和ビル(ネスト南 2 条)2F

電話 011-233-3606 FAX 011-233-3607

URL <http://img-src.jp>

### < 広告募集中 >

同窓生の皆様からの広告をお待ちしております。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

\*スペース・デザイン・料金は事務局までお問い合わせ下さい。

美酒・銘酒

## 酒林坊

二代目坊主

### 柳瀬昇平

(西高 20 回生)

札幌市中央区南 7 条西 3 丁目  
LC 式番館 6 F 011-531-0103

日本各地の地酒をサッポロで!

函館西高と文学

十八回生 北村 巖

(本名・田沢 義公)

明治三十八年五月に庁立函館高等女学校が創立され、その後、道立函館女子高等学校(昭和二十三年)を経て道立函館西高となったのは昭和二十五年のこと。創立以来、この一〇六年間において、わが母校の同窓から多くの分野において幾多の逸材を輩出してきた。なかでも文学の分野では特に活躍している人が多いように思われる。この欄をお借りして、そのことについて少し触れてみたいと思う。西高(もちろん高女・女高時代を含め)からは文学賞の受賞者が数多く生まれ、また多くの作家や文芸評論家などを輩出している。

まず、高女二十一回生の水口幾代(本名・水口花子)が歌集『散華頌』で北海道新聞文学賞を受賞する。このことが草分けとなろう。次に北海道の児童文学を牽引・活躍したのが高女十二回生の長野京子(本名・長野 京)である。高女三十五回生の三国洋子は文化評論新人賞を受賞している。女高二回生の四方万理子は北海道の俳句界で活躍している。

西高の時代になると、二回生の丹羽昌一が『天皇の密使』でサントリーミス터리大賞を受賞している。この作品は丹羽がキューバ大使館

などに勤めていた時の体験などを基にした作品である。四回生の中江克巳は出版社の編集者を経て、作家となり主にノンフィクション作品を手がけ幅広く活躍している。六回生では光城健悦が北海道詩人協会賞を受賞している。十回生の麻生直子(本名・村田千佐子)は『現代詩文庫(Ⅱ期)』に位置された詩人で、また『現代詩女性詩人論』などの評論も手がけている。麻生こそ西高が生んだ「詩の世界」の輝ける星である。十一回生の森真沙子(本名・深江雅子)の活躍も見逃せない。森は『バラード・イン・ブルー』で小説現代新人賞を受賞し、その後は時代小説、ホラー、サスペンスなどの作品を発表している。

十八回生については少し詳しく触れたいと思う。というのは十八回生からは文学で活躍した多くの人々を輩出しているからである。まず、何といっても佐藤泰志が挙げられる。泰志は西高時代に有島青少年文芸賞を二回受賞している。ちなみに、二年の時に泰志は「青春の記録」で同賞の優秀賞を受賞しているが、その時の佳作には十八回生同期の藤本博が入選している(補足すれば藤本は上磯中三年の時と西高一年の時も同賞の佳作に入選している)。さらに語れば三年の時の同賞優秀賞を受賞した高校生は、泰志「市街戦中のジャズメン」と十八回生同期の佐々木進市「屋上の憂鬱」の二人である。つまり、この年に同賞を受賞した高校生は西高が独占したことになる。その後の泰志の活躍は既に伝説

ともなっている。新潮新人賞や三島由紀夫賞の候補となり、芥川賞には五回も候補となっていたが、泰志はそのいずれにも受賞を果たせず四十一歳の若さで自裁していく。

続いて十八回生では北村 巖(本名・田沢義公・自分のことで恐縮だが)『島木健作論』で北海道新聞文学賞を受賞している。また、十八回生の西堀滋樹は日教組文学賞に準入選している。この、十八回生の三人は東京での学生時代に文芸誌『黙示』を創刊した文学仲間でもある。十九回生では中里拓二が『うさぎや物語』で北海道新聞文学賞を受賞しているし、同じく十九回生の秋草調子は栃木県芸術文芸賞を受賞している。二十一回生の関口苑生(本名・田原孝司)は『江戸川乱歩と日本のミス터리』などの著書を持ち、日本のミス터리文学の評論・解説などを数多く手がけている。

西高が生んだ最も著名な作家は、何といっても二十八回生の辻仁成である。作家・辻仁成こそまさしく西高の輝ける星といえよう。辻は処女小説『ピアノシモ』でいきなり、すばる文学賞を受賞。それを皮切りに『母なる風と父なる時化』が芥川賞候補作、さらに『アンチノイス』が三島由紀夫賞候補作となり、ついに平成九年に『海峡の光』で第一一六回芥川賞を受賞していく。まさに快挙である。平成十一年には辻の作品『白仏』がフランスの代表的な文学賞であるフェミナ賞の外国小説賞を日本人として初めて受賞していく。また、辻は小説のみならず多

映画「海炭市叙景」を盛り上げよう



札幌の有志 応援団設立へ

設立準備会が中心となり、札幌市内の有志者が集まり、映画「海炭市叙景」の上映を盛り上げることを目指している。

映画「海炭市叙景」の上映を盛り上げることを目指している。札幌市内の有志者が集まり、設立準備会が中心となり、札幌市内の有志者が集まり、映画「海炭市叙景」の上映を盛り上げることを目指している。

函館の熱意 全道に発信

函館市在住の作家、政治ジャーナリストの伊藤祐輔氏が、函館市在住の有志者が集まり、映画「海炭市叙景」の上映を盛り上げることを目指している。

以上、私の知り得る範囲の西高出身の作家を記述した。一目瞭然のごとく、わが西高からはこと文学においては実に多くの人材を輩出しているといえよう。少なくともこれ程の文学の人材を育んだ高校は道内においては稀である。そのことを最後に強調して筆を置く。

くの詩集も刊行（現代詩文庫一四九集 『辻仁成詩集』など）し、作詞した「君を守りたい」はレコード大賞特別賞にも輝いている。さらに語れば、辻の活動領域は音楽・戯曲・監督・脚本・写真・絵本とまさにとどまるところを知らない。そのほかに、三十九回生の柳涼佳（本名・小柳萌江）が北海道文学賞の佳作に入選、さらに四十回生の小倉彩子も有島青少年文芸賞の佳作に入選している。



映画「海炭市叙景」を観る

伊藤 祐輔（五回生）

事務局長の菩提寺さんの呼び掛けで、十二月十八日にシアターキノで有志による「海炭市叙景」の鑑賞会を行いました。当日は札幌での封切日で、しかも最初の上映時間（九時四〇分）前に集合という厳しいお達しなので、場所もさだかではないため降雪のなか早めに野幌の自宅を出ました。

シアターキノには四〇分前に着きましたが、三十歳くらいの見知らぬ女性の先着者が一名いて、狭い通路に並べられた折り畳みイスの最初に座っていました。その後、ぽつりぽつりと折り畳みイスが埋まっていった時（ほとんどが若い男性でみんな寡黙でした）やっと菩提寺さんが現れました。菩提寺さんは、シアターキノに座席の手配をしてくれ、今日は七人集まる予定だとのことでした。

入場してみると前から二・三列目に「関係者席」の張り紙が十ばかりの座席に張られていてそこが私たちの指定席でした。上映前に「関係者」の優越感にひたつたのは四人だけでした。映画館にはうとい私が「映画がはじまったら入れるの？」と菩提寺さんに聞くと、「予告編の間は入れる」とのことでした。上映前に場内を見渡すとお客さんは九割の入りで早朝ということを考えれば上々だと思えました。案の定、三本目の予告編の時に三人が懐中電灯に案内されて「関係者」の席に着き、やっと映画に集中することができました。

私は文庫本の「海炭市叙景」を読んでいたが、映画化のはなしを聞いてどんな映画になるのだろうかと不安でした。しかし、そんな不安をこの映画は見事に打ち消してくれました。逆にオムニバス形式の小説に慣れずにとまどっていた私は、この映画のエンディングへのまとめ方に救われた気がしました。映画終了後、私たちに特別の配慮をしてくれた支配人に挨拶をして通路に出ると次回の上映を待つ人たちで溢れかえっていました。帰り道で狸小路を歩きながら後輩に「函館以外の人が観てわかるべが」と聞くと「わかるって。わかるさ！」と何時の間にかお互い函館弁になっていました。

昭和二十九年九月二十六日

馬嶋 元子 (高女二十九回生)

その日は朝からシトシトと雨が降っていた。ラジオの天気予報は台風十五号が夜には北海道に接近することを報じていたが、夕方には雨が止み美しい夕焼けとなった。それは今まで見たこともない異様なまでに赤い夕陽、空も地上もギンギラに夕陽に染められてしまった。

あまりの珍しさに長男を背負って外に出ると、雨に濡れた道も、そして身体もすっぱり赤く包まれてしまいそうだった。ちょうど連絡船の出航時で、毎日何回か窓から見えるその姿が今日は何と美しいことか、鏡のような巴の港にその姿を映し静かに浮かんでいるようだった。こんな日の航海はどんなに楽しいかしらなどと呑気に考え、まさかほんの何時間後に、あの大惨事が起ころうとは夢にも思わなかった。

赤い夕焼けが終わるとまた雨、それに加えて瞬間風速四〇メートルの暴風で停電、隙間風で洗濯物がゆらゆらし、港では船がライトを照らし不気味な青い光が家の中に入ってくる。私は、ただ家の中をうろつくばかり。でも、その時、多くの人たちが大波にもまれ運命と戦っていたのだ。

昭和二十九年九月二十六日、洞爺丸が美しい夕陽とともに消えた日だった。このことは多くの本にも書かれているが、私の目の前だけでも、校医の新栄先生宅の二階の破損、七重浜に海水

浴授業のため皆で乗った解の棧橋や弥生小学校向いの文房具店の二階がすっぱり道路に飛ばされていたこと、家の庭に盲啞院のトタン屋根が何枚も落ちて来たり・・・その後、何日も停電が続いたことなど忘れることが出来ない函館の思い出である。



～ ご存知ですか? ～

### 【ウェストヒルズプロジェクト (WHP)】

WHPとは、函館西高等学校の生徒が自らイベントを企画・運営する有志団体です。平成22年度に発足し、今年は「We are friends Concert」と題して、7月10日(日)13時～函館市公民館において、ジャズピアニストの加茂紀子さんをお迎えして開催。題字は函館西高書道部、イラストは函館西高美術部、詩の朗読は函館西高放送局、そして企画・運営をWHPが担当し東日本大震災で被災した仲間たちのために、今、私たちに何ができるか、そして何をすべきかを考え行動しました。

#### <2010年の活動履歴>

- 6月19日：西高+α授業「イベントを企画してみよう」
- 8月27日：縄文フォーラム「JOMONを世界へ」(ハコダテカルチャークラブ主催)
- 9月11日：縄文体験イベント「つくってみよう縄文の里で」(ハコダテカルチャークラブ主催)
- 10月15日：講演「いのちの重さ～森のいのちからわたしたちへ～」(ハマナスの会主催)
- 10月16日：記念植樹「みんなでつくる緑の島公園Ⅱ」(ハマナスの会主催)
- 12月25日：さゆり園訪問ボランティア (WHP主催)

<函館西高HPより>



#### 【編集後記】

今年の夏は北海道でも猛暑続きで「真夏日」や「熱帯夜」という気象用語を十分に聞かされましたが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。このたび私が二期4年つとめた編集長を後輩が引き受けてくれることになりました。私同様、新編集長に更なるご協力を賜りますようお願い申し上げます。

伊藤祐輔

『他にも函館西高等学校では色々なイベントが行われています。』



第7回 +α授業



第62回 学校祭



第5回 吹奏楽部定期演奏会

※「私のお気に入り」はお休みさせていただきます。

つじヶ丘同窓会札幌支部

札幌市豊平区平岸2条6丁目  
電話 011-831-4622 (林)

(mail) nishiko@tsutsujigaoka.net

(HP)http://www.tsutsujigaoka.net/